



駒澤会だより

第19号

2013年7月22日
駒澤大学駒澤会発行



名誉会長のご挨拶

駒澤大学総長・名誉教授・駒澤会名誉会長 いけだ ろさん
池田 魯参

駒澤会の皆様には、日頃から駒澤大学在校生のために何かとご高配にあづかり、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

私は本年4月23日に、田中良昭先生御勇退の後を承け、学校法人駒澤大学総長の職を拝命しました。規程により、駒澤会名誉会長も勤めることとなりますので、どうぞ宜しくお願いします。

駒澤会は教育後援会のOB会です。会員の皆様はご自身の御子弟が卒業された後も、駒澤大学の在校生の教育環境や、就学、就職状況に思いを寄せられ、奨学金制度を設け、就学支援を積極的に遂行されています。これまで40年間で千人を数える学生が恩恵に浴し、卒業後も感謝を忘れず社会で活躍しているようすは実に頼もしく、他大学にはない希有な会といえます。

仏典には、仏道修行は、一に外護^{げご}の善知識、二に同行^{どうぎょう}の善知識、三に教授の善知識の、どれ一つを欠いても成就しないと説いています。これを大学生活に当てはめて見ますと、まずは大学教育に理解のある保護者御父母があつて、その上で同じ志を持って学ぶ友人たちに恵まれ、その道を極め指導してくれる教員や、種種の面倒を見てくれる職員がいて、初めて大学教育が成り立つのだといえましょう。

私自身、今日までの人生を振り返って、恩師の諸先生方、沢山の善き友人たち、父母は勿論、叔父、伯母までが私の学問の成就を願い、応援してくれたことを、昨日のことのように想い起せませす。一人の人間を打出^{たしゅつ}するのに、どれほど多くの手間や時間がかかり、周囲の温かな理解が必要か思い知らされるこの頃です。

最後に一言。御子弟を育て上げられ何年か経った後で結構ですので、教育後援会の皆様方が一人でも多く、OB会である駒澤会へ御入会下さるようお願い致します。遅ればせながら、本会の意義を再確認し、この度、私も駒澤会の一員に加えさせて頂きました。

近況報告方々、お願いまで申し上げます。

委員総会報告

総務部部長 山田 直重

平成25年度駒澤大学駒澤会委員総会が、5月25日（土）の午後1時より駒澤大学深沢校舎の講義室2-1において開催されました。

初めに、4月に駒澤大学総長に就任され駒澤会名誉会長になられた池田魯参総長先生よりご挨拶を頂きました。一昨年発行された駒澤会創立40周年記念誌をお読みになられたことや、ご自身の駒澤大学での経歴を重ねられて駒澤会の歩みに触れられお話をされました。また、駒澤会の奨学金授与による学生支援活動への応援の念を述べられました。

次に、会則に則り森屋正治駒澤会会長が議長となり議事に入りました。本年の総会では、森屋会長のお声掛けで、まず初めに5月5日に急逝されました磯田昭駒澤会元会長のご冥福をお祈りし全員で黙祷を致しました。次に議題の第1項で「平成24年度各部活動報告」が、総務部は私より、広報部は荒井喜久子部長より、また厚生部は木村朋子部長より報告されました。次に第2項「平成24年度決算及び基金管理状況報告」を田中隆一副会長が報告されました。続いて第3項「会計監査報告」が吉田洋一監査より行われました。ここで議長が質問等の受け付けをされましたが質問等なく拍手をもって第3項までが承認されました。

第4項では「駒澤会の規定の審議について」、4月に行われた駒澤大学の組織変更に伴って規定の一部を改正することが議題提出され、駒澤大学教育振興部の鈴木廣部長が大学の組織変更について説明をされ、その後、駒澤会名誉副会長を3人から1人にする規定の改正案は承認されました。第5項「平成25年度各部活動計画」で各部の部長が今年度の計画を発表し、続けて、議題の第6項「平成25年度予算案」について田中副会長が予算案を発表され、審議が行われました。これらも異議などなく、拍手をもって承認されました。第7項「その他」のところで、現在資産運用中の基金の取り扱いは昨年同様に基金管理委員会および役員会へ一任で行くことの確認がなされました。

以上、報告事項および審議事項を滞りなく終了し午後1時50分に委員総会は閉会となりました。

委員総会終了後は深沢校舎洋館小ホールにて教育後援会役員・4年生委員をご招待して懇親会が行われました。



新年賀詞交歓会報告

総務部副部長 吉備 宣子

平成25年2月17日（日）午後6時から、渋谷セルリアンタワー東急ホテル39階ソレールにおいて、駒澤会新年賀詞交歓会が開催されました。

駒澤会主催の賀詞交歓会としては2年目となる今年の会場は39階ということで、都心の夜景を眺めながらの着席でフルコースのお料理をいただくスタイルで、ゆったりと素敵な気分を楽しむことができました。

最初に森屋会長から、昨年は駒澤大学創立130周年、今年は駒沢移転100年と飛躍の年になること、駒澤会としては会員の募集に力を入れながら、今後どのように取組んで行くかを考えなければいけないとのご挨拶がありました。

新年賀詞交歓会には平成25年4月23日まで総長及び駒澤会名誉会長を務められた田中良昭先生、元名誉会長の大谷哲夫様、林達也名誉教授にもご出席いただき、各テーブルでお話しの花が咲き、和やかに歓談の輪が広がりました。

食事の後にはビンゴゲーム抽選会が行われ、お洒落なコーヒーマーカーやIH調理台など総務部が知恵を絞って揃えた景品で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎ、名残を惜しみながらの閉会となりました。

ご出席の皆様と楽しいひとときをご一緒させて頂きありがとうございました。

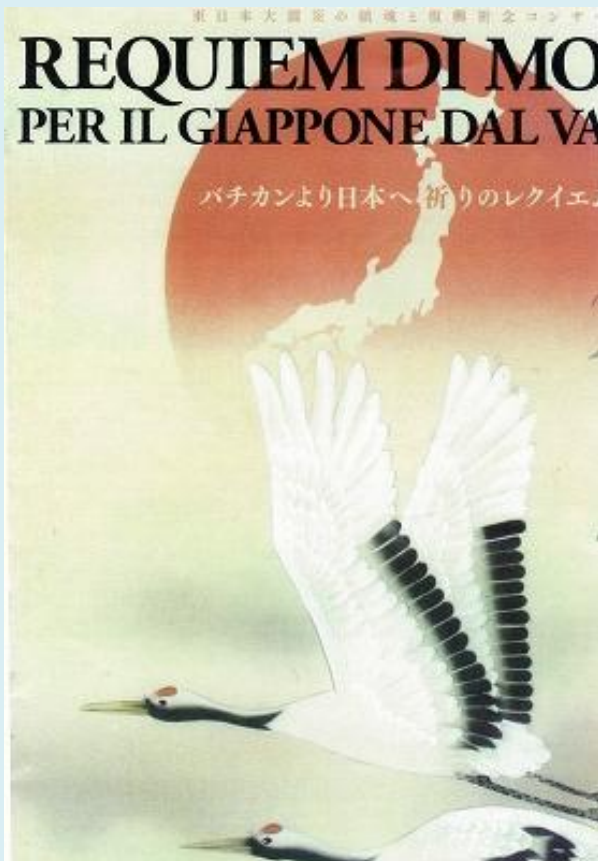




森屋正治会長ヴァチカンより日本への 祈りのレクイエムコンサート挙行

此の度誰もが不可能と云われたヴァチカンより日本への祈りのレクイエムコンサート、そして日本国東日本大震災被災者霊位並びに伊太利亜共和国地震被災者霊位に対して、実行委員長に大谷哲夫元学長にお願いし、日本仏教会による読経もヴァチカン始まって以来の御理解で挙行されました。日本国、イタリア共和国、ヴァチカン市国枢機卿他多数の国々の大使等又、ヨーロッパを代表する指揮者にダニエーレ・アジマン、ロッシーニ管弦楽団、ベーサロ・サンカルロ合唱団、他一流アーティスト、被災地の高校生・大学生も合唱団に加わっての2,800人を超える参加者の中、森屋会長は挨拶で国境・宗教を越えて、世界の人々が一つの思いで、災害等で亡くなられた方々の鎮魂と被災者の方々への支援、そして宗教は人類の幸せの為にあるものと会場の皆様方にお話をされました。森屋会長が代表を務めている日本元気プロジェクトの積み重ねての活動を御理解頂きヴァチカンより世界の福祉に対する功労者として森屋会長に金メダルが贈られました。

バチカンで鎮魂コンサート 日伊の震災犠牲者を追悼





岩手県立高田高等学校の生徒たち



バチカンに同行して

監査 赤堀 菊絵

駒澤会の森屋会長が凄い事を成しとげた。東日本大震災から2年目にあたる3月11日ローマヴァチカンより、日本への祈り（鎮魂）復興祈念コンサートが開催された。ここは世界遺産でも有名。使用許可が下りることは、まずありえない場所。会場には大勢の人達で埋めつくされ回廊にも、人が溢れていた。新聞、TVで報道され、2,800人以上とのこと。

駒澤大学前総長大谷哲夫先生は、駒澤会の名誉顧問でもあり、森屋会長と共に、駒澤会に深くご縁のある方達です。

大谷先生は佛教界の代表として、ご挨拶を述べられました。

森屋会長にヴァチカンより、復興支援活動等、世界の福祉に貢献されたことが大きく認められ金のメダルが授与されました。日本人として、大変名誉な事です。熱い想いが伝わり皆さん感動で胸がいっぱいになり、涙する場面もありました。

前ローマ法皇ベネディクト16世のメッセージハーヴェイ枢機卿の天使のような優しい語りお言葉を聞き、心がおだやかになり癒される。仏教やカトリック、それぞれ違いはあっても、被災された方達のご冥福を共に祈りました。

コンサートはイタリアを代表する一流のアーティストの皆さん。中でもイタリアで活躍されている榛葉昌寛さんの歌った曲は、世界初演（エレジー愛しい人）へ捧げる哀歌は感動しました。

折りしも、ローマは次期法皇を選出するコンクラーベ。白い煙、黒い煙どちらか街中がTV中継され、大騒ぎの中この歴史的な瞬間にローマにいた事に運命的なものを強く感じました。

元気、復活を掲げ、即実行。行動をさらりとやってのけてしまうところが森屋会長流なのかも知れません。今回、このコンサートにたずさわった数多くの皆様、御支援、御協力、お力添えに深く感謝申し上げます。感動を有り難うございました。

卒業式にて駒澤会入会を呼びかけました

広報部部长 荒井 喜久子

平成25年3月25日、駒澤大学学位授与式に於いて、駒澤大学卒業生父母の皆さんに、体育館ロビーにて駒澤会への入会を呼びかけました。駒澤会の目的とするものを訴え、一人でも多くの御父母の皆さんが、勉学に励む学生に対して奨学金を授与し、又駒澤会会員相互の親睦をはかり、伝統を守り続けまじょうと呼びかけました。少し駒澤会の意義がわかってもらえたかなと思いました。その場で主旨に賛同して下さる方もおり、入会を希望して下さいました。そしてもう少し目立つように訴えたらよいのではとの声も頂きました。来年は更に多くの方に入会して頂けるよう話し合いました。



基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～7月までの利金	備考
三菱UFJモルガンスタンレー証券	329,089円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	1,507円	定期預金利息
世田谷信用金庫	7,969円	定期預金利息
合計	338,565円	

基金管理委員長

駒澤会奨学金について

平成25年度、下記のとおり奨学金が支給されました。

支給金額 総額500万円（20万円×25人）

奨学金授与式 平成25年7月17日（水）

出席者 学長、駒澤会執行部

※詳細は駒澤会だより20号及び駒澤会HPでお知らせいたします。

各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。
会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、**近郊の方又は遠方でも
2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。**
皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：田村までご一報ください。

TEL : (03) 3418-9189 FAX : (03) 3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所などを考え活動しています。

訃報

永年にわたり駒澤会でご活躍頂いた磯田昭氏が平成25年5月5日にご逝去されました。

磯田氏は、昭和60年に駒澤会に維持会員としてご入会いただき、平成4年度から平成15年度まで監査、平成16年度から平成21年度まで会長を3期に渡り務められ、駒澤会に多大なるご尽力をいただきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

「菜の花畠に、入日薄れ、見わたす山の端、霞ふかし…」ほのぼの薄明かりの月の下、月夜鳥（酔払）になった家路は、「朧月夜」の唱がわたしをご機嫌にします。

今宵、6月26日は「スーパームーン」、朧な雲ゆきをはるかに越え、厚い雲に覆われてしまった今年のスーパームーンは残念ながら来年までお預けになりました。普段より明るさが14%、大きさは30%アップするという今宵の満月よりも、わたしにはほのぼの朧な満月にどうも気持ちが揺り動かされます。

「朧月」英語に直訳すれば「Clouded-over moon」とでもなるのでしょうか。拙いわたしの語訳では、ほのぼの霞がかかる満月の情景をどうも思い描けません。欧米の月に関わる暦を眺めてみても、1月のEgg moon 2月のMilk moon 3月のFlower moon…と生活感のある呼び名こそ続きますが、朧月を思い描くような呼び名など見つけることはできません。

夏目漱石が英語の教師をしていたとき、「I love you」の和訳を「われ君を愛す」と訳した生徒に対して、「君、日本人はそんな言い方はしない、月が綺麗ですね…とでも訳しなさい」と言ったとか。

皆さん、もしもロマンチックな満天の星空「今日の月はとても綺麗ですね」と言われたらどうされますか。決して、わたしのように朧月夜を唄ったり、「いいえ、わたしは朧月の方が大好きです」と野暮を言っただけではありません。にこりと微笑み「ほんとうに綺麗な月ですね」とそっと応えましょう。

ちなみに、暦の上で月1回訪れるはずの満月も、時に月2回訪れることがあります。その年は満月の夜が合計で13回訪れることになり、この月を「13番目の月」とも云われるそうです。この13番目の月は別称「ブルームーン (Blue moon)」という妖艶な呼び名もつけられています。稀に起こる事象ゆえに、本来ならば「あり得ない事」という意味にも使われるそうです。ご注意戴きたいのは、女性がこのカクテルを頼んだ時は「あり得ないこと」つまり、あなたとお付き合いしたくありませんという意味になるそうです。どうぞ満月の夜はお気をつけて。

広報部 松浦 雅人

事務局からのお知らせ

大学行事予定

7月22日（月）前期授業最終日
7月31日（水）～9月15日（日）
夏季休業期間
9月16日（月）後期授業開始日
9月21日（土）9月卒業式
10月15日（火）第131回開校記念日
11月 2日（土）～3日（日）
オータムフェスティバル

駒澤会行事予定

7月17日（水）駒澤会奨学金授与式
9月28日（土）～29日（日）
駒澤会秋の研修会
12月 7日（土）駒澤会忘年会
2月中旬 駒澤会新年賀詞交歓会（予定）

駒澤大学
駒澤会



駒澤会だより 第19号

発行日：平成25年7月22日
発行者：駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：(03) 3418-9189
FAX：(03) 3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HPより>

<http://www.komazawa-u.ac.jp>

→ 在校生父母の方 ～ 駒澤会クリック